令和2年度授業改善推進プラン

（取り組み内容）　・毎学期の終わり、自分の担当（各学年ごとに項目だてて）の授業に関して作成する。
・本年度の自己の研修課題に関連し、自己の授業を分析し課題を見いだす。
・見いだされた課題に対し改善プランを立て、指導方法の工夫・改善を図る。
・学期の終わりに検証を行い、来学期につなげていく。

教科名（　家庭　）　教科担任名　　武井　祐里佳

★教科・観点について
期末テスト及び学期の学習状況、生徒の授業アンケートをもとに分析し記入する。＜○成果　▲課題＞

観点	1学期			2学期			3学期
	学年	課題分析	具体的な改善策	学年	課題分析（授業改善・プランの1次評価）	1次評価後の具体的な改善策	改善プランの評価・来年度にむけて
生活や技術への関心・意欲・態度	1年	○授業の目的や私生活の中でどのように使われているかなどを説明した上で授業を行ったため、全体的に意欲的に活動していた。また、関心をもって授業に取り組むことができる。	・毎時間の授業の目標を掲示し、授業の目標を把握できるようにする。 ・特別な持ち物がある場合は、2～3時間前の授業から連絡を行うことや、教科係、学年教員にも伝え、忘れ物がないように声掛けを徹底していく。また、黒板等にも掲示し視覚的にも情報が入るようにする。 ・ICT機器（PCと大型テレビ）を効果的に使用し、生徒の興味や関心を高める工夫を行う。 ・授業評価アンケートより、「授業の分量や進む速度は適切である」では、「あまり当てはまらない」と答えた生徒がいた。毎時間の授業の評価を行い、1時間の授業の分量や進む速度について検討していく。	1年	○比較的楽しみにしている生徒が多く、忘れ物も少なくなった。 ▲時間内に作業を終わらせることが苦手である。	・被服実習では、基礎的な技能を毎時間時間を取り、繰り返し行い、テストなども行うことで生徒の成長も目で分かるようになった。そのため生徒自身も意欲や自身に繋がり時間内で目標とする作業が終わる生徒が増えた。そのため今後も基礎的な技能の定着を図るため繰り返し行う学習も取り入れていきたい。 ・クロームブックを使用した学習は、生徒の活動も目視できるが、画面越しでの学習が増えてしまわないように授業の改善を行っていく。	
	2年	○食生活について、意欲的に学習に取り組んでいる。 ○被服実習については、環境など実生活と照らし合わせながらエコバッグの製作を行っている。 ▲一部の生徒が期日内に提出物を提出できない。		2年	○比較的楽しみにしている生徒が多く、忘れ物も少なくなった。 ▲意欲はあるが、積極性に欠ける。		
	3年	○幼児の生活や成長について関心をもち取り組むことができた。 ▲集中力に欠けることがある。		3年	○製作の学習では、班内で教え合いを行いながら行うことができる。 ▲授業の内容によっては、注意散漫になってしまうことがある。		
生活を工夫し創造する能力	1年	○衣服の表示を確認し、適切にアイロンかけをすることができる。 ○ミシンの基本的な使用方法を理解している生徒が多い。	・家庭生活について、課題を自ら考え、解決していく方法を考えていく時間をより多く設ける。また、考えた内容をペアやグループで共有し、深い学びが得られるような工夫を行う。	1年	○自分の身の回りの中から課題を見つけることができる。 ▲課題を見つけ、課題を見つけ解決するところまでの行動には欠ける。	・これまで学習した内容と家庭での結びつきを意識した授業を意識的に行い、実生活に結びつけるような工夫を行う。	
	2年	○衣服の表示を確認し、適切にアイロンかけをすることができる。 ○ミシンの基本的な使用方法を理解している生徒が多い。 ○生鮮食品と加工食品の選択について深く考えることができた。		2年	○自分だけでなく、自分の行動が社会に与える影響まで考え、どのような行動が相応しいか考えることができる。 ▲授業で学んだことが実践に生かすことが難しい。		
	3年	○幼児の心身の発達に応じた遊びや遊び道具について考えることができた。		3年	○幼児の発達段階について考え、どのように接すればよいか考えることができた。		
生活の技能	1年	○衣服の表示を確認し、適切にアイロンかけをすることができる。 ○玉結びをほとんどの生徒が習得することができた。	・生活に必要な技能を定着させるために、実技の授業の時数を多く確保できるよう工夫していく。 ・小テストなどを通して自分の技能の定着を目で見ても分かるようにし、生徒の自己肯定感を高めていく。また、小テストを通して、家庭でも実践する機会を作っていく。 ・実物を示したり、実際に触れたり、体験する活動を増やしたりして技能を定着させる。	1年	○まつり縫い、ミシンの使い方を習得することができた。 ○要らなくなった服から、自分で製図を行い別の物に作り変えることができた。	・実習で行うことのできる活動においては、積極的に行うようにしていく。 ・感染症のため制限される実技においては、家庭での学習もできるようにしていく。	
	2年	○布の特性を確認し、適切にアンロンかけをすることができる。 ○ミシンの適切な扱い方を理解している。		2年	○まつり縫いを習得することができた。 ○正しい包丁の扱いや野菜の切り方について実技を行うことができた。		
	3年	○正しく用具を使い、裁縫をすることができた。		3年	○ミシンの扱い方を再度復習し、技能を習得することができた。 ▲実際に幼児と触れ合う体験を行うことができなかった。		
生活や技術についての知識・理解	1年	○衣服の社会生活上の機能について理解している。 ▲衣服の繊維に応じた手入れの方法や汚れ方に応じた洗い方についての知識が乏しい。	・期末考査の結果や授業内での観察から、知識・理解の定着が乏しい箇所については、授業内で復習等を行う。 ・座学だけでなく、実技の時数も増やし、体験活動を通して理解を深める活動を増やす。 ・実生活に即した、教具や教材を効果的に活用する。	1年	○ボタン付けやまつり縫いなどの衣服の基本的な補修の知識を身に付けることができた。 ▲家庭科で扱う名称などの知識の定着は乏しい。	・グーグルクラスルームを活用しながら、生徒の毎時間の知識の定着を図っていく。 ・実生活での結びつきを生徒に意識させ、知識が自然に身についていくような支援を行っていく。	
	2年	○食品や調理用具の安全と衛生面に配慮した適切な取り扱い方を理解している。 ▲栄養素の種類と働きについての知識の定着が乏しい。		2年	○栄養素の種類と働きについての知識の定着が図れた。		
	3年	○幼児の心身の発達の特徴について理解している。		3年	○幼児の食事の在り方などに関する知識の定着も図れた。		
授業改善の検証方法		・授業観察　・授業アンケート　・小テスト　・定期考査　・感想シート　・ワークシート					

研修課題（キャリア教育に関連した教科としての取組）	研修課題に対する教科としての具体的な実践方法	1学期の成果と課題	1学期の結果を踏まえた具体的な実践方法及び追加内容	2学期までの成果と課題	1年間の成果と今後の課題
【成果】 衣生活と自立では、毎日着用している制服を視点にし衣服の役割や機能について学ぶことができた。また、手縫いの基本である玉結びを全員ができるようになった。	衣分野や食分野での実習を行い際は、毎時間の目標や題材の目標を事前に一覧で掲示し、作業や流れに見通しをもたせる。また、授業前の自分と授業後の自分をイメージさせ、できるようになったことを明確に生徒自身で気付かせ、達成感の得られる活動を増やし、自己肯定感を高めたい。	【成果】 生徒に目的意識を持たせて活動を行うことができた。被服実習では、時間をかけて基礎的な技能を身に付けさせることで生徒の製作意欲も増し、自主的な活動が行えた。 【課題】 感染症対策の中での技能を身に付ける学習には、限りがある。グーグルでのクラスルームなどを効果	グーグルのクラスルームを活用した授業展開を増やし、生徒の知識の定着や家庭学習にも役立つ情報を発信していく。	1人1台のクロームブックの導入により、学習の幅が広がった。 授業内に行っていたレポートなどの作成も、家庭における課題などを自分の衣生活と照らし合わせるため、自宅で情報を集めてすぐ記録（写真）などに残すこともできるようになった。 使用できるコンテンツがまだあるため教員のスキルも上げていく必要がある。	